

建設建築委員会 行政視察（案）

○ 魅力的なまちづくりについて

No.	視察項目	視察先	視察内容
1	都市の再生に関する調査研究、情報収集等について	北海道富良野市	ふらのまちづくり株式会社が公益的ディベロッパーの役割を担い、富良野らしい景観を備えた「にぎわい滞留拠点」として、「食文化の発信基地」となる「フラノマルシェ」を整備し、さらにまちなか居住の推進へと展開している。都市再生特別措置法に基づく、都市の再生に必要な公共公益施設の整備等を重点的に実施すべき土地の区域のまちづくりを担う法人として、富良野市の指定を受けており、本市の参考としたい。
2	岡山・空き家を生まないプロジェクト	岡山県岡山市	建物の所有者やその関係者を対象に、住宅の将来について考え、地域に空き家を生まないための様々な取組みを行う、産官学協働プロジェクトで、国土交通省の空き家対策の担い手強化・連携モデル事業にも採択されており、本市の参考としたい。
3	柏アーバンデザインセンター	千葉県柏市	柏市では、公・民・学が三位一体となって柏駅周辺のまちづくりを推進する課題解決型のまちづくり拠点として、柏アーバンデザインセンターを整備しており、本市の未来像を考える上で参考としたい。
4	豊島区役所	東京都豊島区	豊島区役所では、国内初の自治体本庁舎と民間高層集合住宅一体型施設であり、今後の公共施設のあり方について、本市の参考としたい。
5	駅前再開発プロジェクトについて	兵庫県姫路市	姫路駅を中心とするエリアにおいて、都市再生特別措置法に基づく都市再生整備計画を策定し、その中で位置づけられた各種事業を行いながらまちづくりが進められている。特に駅前再開発プロジェクトを視察し、本市の駅前再開発計画の参考にしたい。

○ 防災・減災対策について

No.	視察項目	視察先	視察内容
6	防災減災対策について	静岡県	南海トラフ地震の発生で、極めて甚大な被害が想定されるのが静岡県である。防災先進県といわれる静岡県では、さまざまな防災への取り組みを行い、地域住民が安心して暮らせる地域づくりに励んでおり、本市も参考にしたい。
7	防災減災対策について	静岡県静岡市	市町村防災訓練や小中学校の避難訓練の実施率が100%等で南海トラフ大地震対策を積極的にしており、本市も参考にしたい。
8	防災減災対策について	静岡県熱海市	令和3年7月3日に熱海市伊豆山地区で発生した土石流災害に至る事実経過、これを踏まえた熱海市の行政対応上の問題点及び問題点解消に向けた再発防止策について視察し、本市の参考としたい。

○ 交通政策について

No.	視察項目	視察先	視察内容
9	交通難民	長崎県島原市	人口減少や少子高齢化による乗客減、車両の老朽化や運転者不足の慢性化や新型コロナによる収支の悪化が決定打となり地元路線バスが廃止。路線バスやコミュニティーバスのように決まった路線や時刻表がなく、事前予約を前提として同時間帯に同方向へ向かう乗客をAIがマッチングする乗り合い制の公共交通で、自家用車などを持たない住民が「交通難民」となる危機を救った事例を視察し、本市の参考としたい。
10	通学路の安全対策	千葉県流山市	流山市内の小中学校の通学路において、流山市通学路安全対策プログラムに基づき歩道整備等の安全対策を行い、通学児童の安全を図っており、整備計画や対策状況を視察し、本市の参考としたい。

No.	視察項目	視察先	視察内容
11	自動運転バス「NAVYA ARMA」 (ナビヤアルマ)	茨城県境町	<p>境町では、ソフトバンク株式会社の子会社であるBOLDLY株式会社及び株式会社マクニカの協力のもと、自動運転バスを3台導入し、生活路線バスとして定時・定路線での運行を令和2年11月から開始している。乗車定員11人以上の車両が、一般の方の移動手段として期間を限定せず、大半の区間を自動で走行するのは初めてで、自治体が自動運転バスを公道で、定常運行するのは、国内で初めての事例である。以下の項目について視察し、本市の参考としたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自動運転バスの運行管理 ・運行ルートを選定及び安全対策
12	無人運転について	愛知県ほか	<p>無人運転「レベル4」の公道走行が令和5年4月から解禁された。公道走行や遠隔監視装置等を合わせて視察し、本市の参考としたい。</p>